学校法人朴沢学園中期経営計画

（期間：２０１９年４月1日～２０２４年３月３１日）

2019年4月1日

学校法人　朴沢学園

はじめに

明治１２年、近代日本の草創期に、創始者は、「創意工夫ある実学（人材育成）教育」を建学の精神として、本学園を立ち上げました。本学園は、私学教育において、県下随一の長い歴史と伝統を有ししております。

時代変遷の中、空襲による校舎全焼、大学新設の際の定員未充足による経営危機、東日本大震災被災など、幾多の困難を乗り越え、現在の１８歳人口の減少期の厳しい経営環境下、本学園は、今年度創立１４０周年を迎えます。今後も継続して多様な生徒・学生にきめ細やかな教育を行っていきます。

今後のさらなる学園の発展のために、今年度より５年間を本学園教育再創造期と位置づけ、現状の冷静な分析把握に取り組み、私学教育のフレームワークの見直しにチャレンジしていきます。

設置する大学と高校の７年間に亘る教育の一体化を図りつつ、教育を巡る厳しい経営環境下での生き残りと教育再創造に向けた新たなモデル作りに取り組んでいきます。

今後５年間で取り組むべきことをこの中期経営計画に網羅し、教職員に周知し、全学園一体となって挑戦していきます。さらに、このような本学園の挑戦の取り組みの状況をホームページ等で公開していくことで学園を取り巻く皆々様のご理解を得ていきたく考えております。

Ⅰ．学園の社会的使命

今年、創立１４０周年を迎える当学園は、「創意工夫　実学尊重」を建学の精神とし実学教育を主に時代の変遷、社会の要請に的確に応えてきました。

設置する仙台大学は、北関東以北唯一の体育・スポーツ・健康科学系大学としてスポーツ科学を基本に６学科（体育学科、健康福祉学科、運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科、現代武道学科、子ども運動教育学科）を設置し、時代の要請に応えるとともに、建学の精神に則り、確かな技術を身に付け、自主自律の行動ができる社会に有用な人材を生み出してきております。設置する明成高校も実学主体の伝統を受け継ぎ３学科体制（調理科、介護福祉科、４コースで構成する普通科）でより一層、社会の基盤を支える有用な技術を身に付け、社会の範を示す行動ができる人材を養成してきております。

時代ならびに社会からの要請を的確に把握し、当学園の教育の在り方を見直しさらなる発展を目指していきます。

Ⅱ．目標と計画

＜学園の全体目標＞

第１　創立１４０周年を迎えた本学園（大学・高校）のさらなる発展への再創造

大学においては、カリキュラムの再構築をはじめ学びの在り方を見直し、高校・大学７年間の高大接続・連携を明確化し、これを踏まえた高校の学科再編、教育理念に立脚した大学付属高校化の実現という本学園全体の教育の再創造に取り組んでいきます。

第２　学生・生徒の安定的確保

設置する大学、高校で学生・生徒の安定的な確保に力を注ぐこととし、行政施策の動向も踏まえたうえで、下記の数字目標を目指し英知を発揮していきます。

大学	入学者数＞入学定員×１．１５倍
高校	入学者数＞募集定員

第３　経営基盤の強化

計画的な財務運営に努め、あらゆる収入確保の機会を捉えるよう力を注ぐとともに、一方支出においては慣習的・硬直的な支出を改め、費用対効果の具現化を念頭に計画的な支出に努めていきます。これにより、経常収支差額の黒字の定着化を目標として収支改善に努めていきます。

【１】　大　学

基本目標

- 学生ファーストの面倒見のよい大学づくりに教職員一体となり取り組み、実学と創意工夫を身に付けた人材を養成し、高等教育機関として生き残りを目指します。

- 教育の質の保証と情報の公開に取り組むとともに、地域連携や国際交流の強化をも図りオンリーワンの大学を目指します。

- 大学教育の観点から高大接続改革を先導し、７年間教育という高大連携の強化を図ります。

【２】　高　校

基本目標

- 建学の精神に則り、地域協働を伴う高校教育改革、高大接続等の行政動向を踏まえた実学基調の学科再編等を実施し、存続が望まれる高校を目指します。

【３】　法　人

基本目標

- 本学園創立１４０周年を契機に、教育改革動向を踏まえた私学教育改革に着手し、創立１４５周年までに私学教育再構築を主導します。

- 知・徳・体の拠点として、地域協働型の川平地区再整備事業を推進します。

- 継続可能な財務基盤の確立及び時代に則した組織・運営体制の充実を図ります。

＜個別の「目標と計画」＞

大　学

1．教育・研究

目標

情報公開に裏打ちされた「教育の質」を保証し、面倒見のよい大学を目指して、学生にとり実学と創意工夫を身に付ける教育内容の拡充整備を図るとともに、これを支える研究の充実も併せて行っていきます。

計画

（1）カリキュラム改革に取り組ます。

①「する」「見る」「支える」というスポーツの3要素を体育・スポーツ・健康科学の科学的視点から点検・再整理し、社会から求められる人材像を踏まえた教育や社会的資格の取得に必要な教育を念頭に専門科目の再構築を行っていきます。

②中学・高校の保健体育の教員その他の教員の養成教育、又は厚生労働省資格付与教育に必要な科目群を点検・再整理し、カリキュラムのスリム化を検討していきます。

③多様な専門学科に進む学生に対応するための教養科目、専門基礎科目の在り方を検討していきます。

（2）教員養成の強化を図ります。

①大学における「教採塾（外部講師による最前線の教育現場での教育事情や学内研究者による最新の教育事情の教授）」を通し、また高大連携の視点から教員希望者の高校生段階での教育を含めた教員養成教育の強化を図っていきます。

②国際交流を活用し、国際的視野をもった教員養成にも力を入れていきます。

（3）英語教育改革を取り組みます。

○入学後、プレースメントテストを実施し、習熟度別教育（5段階レベル別教育）を行ない、海外留学志望を含むニーズの多様化を踏まえ学生の英語力向上を図ります。

（4）ＵＮＩＶＡＳ（大学スポーツ協会）への積極的な取り組みを行います。

①スポーツ局を立ち上げ「するスポーツ」のみならず「支えるスポーツ」（体力増強・体調管理、怪我の予防・スポーツ栄養指導・スポーツ情報分析等）の人材育成にも多角的に取り組みます。

②大学独自の「スポーツソムリエ」（スポーツ庁委託事業）の具体化を目指して新たなスポーツ教育モデル構築を目指していきます。

（５）高校・大学の７年教育の取り組みを行います。

○大学教員の活用による付属高校と大学との７年一貫教育の取り組みという独自色を追及するとともに、付属高校から大学への内部進学増を目指し、学生の安定確保に努めていきます。

２．東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み

目標

北関東以北唯一の体育・スポーツ・健康科学系大学として、ポスト東京オリ・パラも視野においたイベント支援等に全学を挙げて取り組んでいきます。

計画

（１）オリンピック・パラリンピック選手の輩出

○卒業生を含め選手輩出に全学的に取り組んでいきます。

（２）ホストタウン招聘により事前合宿として大学施設の活用を行います。

○ベラルーシ共和国、パラオ共和国の事前合宿を本学で実施し、ベラルーシ共和国から若手指導者を招聘し、地域間交流を促進します。

（３）ポスト東京を睨んだ大学教員の指導者としての派遣を行っていきます。

○柔道指導者をハンガリーへ派遣していきます。

３．地域連携

目標

大学のもつ知見、人材を活用し、中教審答申などを踏まえ、地域創生の視点から地域との各種連携を行っていきます。

計画

（１）宮城県支援事業を通しての地域連携を行います。

○県全体のジュニアアスリート育成事業の支援、また大河原町（「知・体」バランスの取れた小学生の成長支援）ならびに気仙沼市（ＩＣＴ活用による中学生の部活動支援）と連携を行っていきます。

（２）プロスポーツとのアカデミックパートナー連携を行っていきます。

①株式会社仙台８９ＥＲＳ（バスケットボール）、株式会社ベガルタ仙台（サッカー）株式会社楽天野球団と本学はスポーツ科学諸分野の指導者育成を図るための協定を締結してます。

②インターシップならびに専門科目（コーチング、Ｓ＆Ｃ、ＡＴ、スポーツ栄養、情報戦略、マネジメント）の学修効果の向上の観点からプロスポーツの現場における応用体験を実践していきます。

（３）近隣市町村との連携を行います。

○本学の教員養成教育の一環で、義務教育連携現場でのボランティア実習（「放課後先生」）、介護教育、健康運動教育の一環で現場実習を兼ね高齢者介護予防・成人の健康実践指導に取り組みます。

（４）民間企業等と連携を行います。

○ＪＡＸＡ、アイリスオーヤマ、ゼビオアリーナ、リコージャパン等の企業と連携し、本学の健康教育の一環で、企業の職場での健康問題など解決のため連携を行っていきます。

４．国際交流

目標

従前の提携大学他（１１カ国、１８大学・研究所）との連携を強化拡充するとともに、本学の教育研究のニーズを踏まえ、新たな提携先を模索し大学ブランド力強化の観点からも、国際教育の充実を図っていきます。

計画

（１）学生を提携大学等へ積極的に派遣することを企画・実施していきます。

○独立行政法人日本学生支援機構の補助金等を活用し、学生の国際交流を支援していきます。

（２）新たな提携先拡大を模索していきます。

○アジア、オセアニア地区を中心に交流拡大を模索していきます。

５．学生募集、就職支援

目標

面倒見のよい大学の実現のため学生募集・就職支援を強化していきます。

計画

（１）学生募集の強化を行っていきます。

①オープンキャンパス開催数増、ホームページの内容改訂等を実施していきます。
②ＷＥＢ出願の検討実施を行っていきます。
③教職員一丸となった志願者確保戦略を検討し実施していきます。
④多様な学生確保のため多様な入試方法の検討を行っていきます。

（２）就職支援の強化を行っていきます。

①就職支援取り組み開始時期を繰り上げて、早期に取り組みを行います。
②学内合同企業説明会等を開催し、学生の多様な要望を支援していきます。
③就職に必要な教養を身に付けさせる体系的な指導体制を整備していきます。

６．研究費の外部資金獲得促進

目標

研究活動の活性化のため、更なる外部資金等の獲得を目指します。

計画

スポーツ科学の特質を踏まえた組織的な研究体制を整備し、科学研究費等の外部資金の獲得促進を行っていきます。

７．施設整備

目標

スポーツ競技場の国際水準での整備、バリアフリー化等弱者に配慮した施設整備を行っていきます。

計画

（１）陸上競技場の２レーン増設工事　　＜工事(2018-2019)＞

（２）野球場の人工芝化　　＜工事(2019-2020)＞

（３）川平再整備事業（仙台地区拠点造り）＜工事（2019-2022)＞

高等学校

目標

建学の精神に則り、地域協働等の高校教育改革に先取的に取り組み、私学教育の特質を活かした先導的な実学教育の実施を実現します。

計画

（１）学科再編の実行

①建学の精神を踏まえ、私学教育の特質を活かせる専門学科主体の学科再編を行うとともに、高大接続改革の趣旨を体現するものとして、高校レベルからの教員養成教育のシステムの導入その他、普通科教育においても実社会との接続を意識したカリキュラムの構築等の学習指導要領改正の意図を先取した先導的な取り組みを実施していきます。

②2020年4月再編実施に向けて、申請その他の諸手続、体制作りを遺漏なく行っていきます。

③学科再編後のＰ．Ｄ．Ｃ．Ａ．の鋭意実施を行っていきます。

（２）大学の連携強化

①高大接続改革の先取的取り組みを内外に認知させるべく、大学の付属高校化を行います。

②大学教員の積極関与による連携強化を図るべく、高校教員・大学教員の相互研修・情報共有化の体制づくりを実施します。

法人

目標

安定した継続可能な財務基盤構築を主眼とし、時代要請に応えたコンプライアンスを重視した職場づくりを行っていきます。地域の防災も視野に入れた川平地区再整備事業を実施します。創立１４０周年の節目を嚆矢とした高大接続改革に沿った本学園の教育改革を創立１４５周年までの間、遂行していくとともに、周年記念事業に取り組んでいきます。

計画

（１）コンプライアンス重視の働きやすい職場づくりを行っていきます。

①諸規程整備への取り組みを継続的に行っていきます。

②関連法律等改正への対応を、適時、行っていきます。

（２）安定した継続可能な財務基盤を構築していきます。

①法人主導による大学・高校一体の財務管理の運営の徹底を行っていきます。

②大型投資案件の計画的対応を行っていきます。

（３）川平地区再整備事業の実施を行っていきます。

①川平地区（仙台市青葉区川平）キャンパスの再整備を2019年～2022年にかけて行っていきます。

②再整備事業は、高校校舎建替、大学の仙台拠点造り、大学の体育館等の新設、周辺住居への防災対策等を行っていきます。

（４）創立１４０周年事業を執り行います。

①記念式典、関連歴史編纂・資料整理等を行っていきます。

②創立１４０周年記念募金活動を行っていきます。

Ⅲ．財務の見通し

１８才以下人口が減少する厳しい経営環境であるものの、北関東以北唯一の体育スポーツ・健康科学系大学であり送り手の支持を得て、学科新設（子ども運動教育学科）、および定員増（現代武道学科、体育学科）を2021年度に完成いたします。現在収容定員確保は堅調であり、社会の要請に応えられる高等教育機関として、継続見込みであります。

一方高校は、実学中心という私学の意義は保有しているにも拘わらず、公立高校との差別化の説明不足等から入学定員確保は厳しい状況が続いております。

大学は学科開設ならびに教育の質向上のため教員の先行確保等を続けており、高校は収入不足から、法人全体として支出先行型の赤字基調となっております。

大学の学科増設、定員増の完成ならびに2020年度からの学費改訂予定により、2020年度以降経常収支差額の黒字化達成見込みであり、その後も黒字基調化を目途として運営していきます。

事業活動収支見込み

（単位：人、百万円）

			（2018年度補正　参照）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生数/生徒数	大学/大学院	学生数	2,461	2,534	2,647	2,698	2,704	2,695
		（収容定員）	(2,402)	(2,402)	(2,492)	(2,542)	(2,542)	(2,542)
	高校	生徒数	884	835	860	900	920	950
		（募集定員×３）	(1,200)	(1,200)	(1,130)	(1,060)	(990)	(990)
教育活動収支	教育活動収入		4,390	4,476	4,576	4,715	4,714	4,779
		学納金	3,468	3,514	3,666	3,773	3,841	3,875
		経常費等補助金	740	717	658	670	670	670
	教育活動支出		4,343	4,630	4,520	4,686	4,629	4,697
		人件費	2,677	2,863	2,850	2,863	2,810	2,866
		教育研究費	1,219	1,318	1,232	1,395	1,386	1,403
		管理経費	446	447	429	420	425	420
	教育活動収支差額		47	△ 154	56	29	85	82
教育活動外収支	教育活動外収入		4	2	3	1	1	1
		受取利息・配当金	4	2	3	1	1	1
	教育活動外支出		6	5	14	14	14	13
		借入金等利息	6	5	14	14	14	13
	教育活動外収支差額		△ 2	△ 3	△ 11	△ 13	△ 13	△ 12
経常収支差額			45	△ 157	45	16	72	70
特別収支差額			△ 13	△ 18	△ 18	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額			32	△ 175	27	16	72	70
備考	<教務関連>							
	（１）子ども運動教育学科新設(160名)							
	（２）現代武道学科定員増（40名）							
	（３）体育学科定員増(200)名							
	（４）学費引上実施（大学,高校）５%程度予定				高校	大学		
	<施設関連>							
	（１）大学陸上競技場２レーン増設							
	（２）大学陸上競技場公認更新							
	（３）大学野球場人工芝化工事							
	（４）川平地区再整備事業							(旧校舎取壊予定)
	（５）教育環境改善(含むバリアフリー化)							

Ⅳ. 進捗管理

1．　年度終了後各部門毎で進捗Ｐ．Ｄ．Ｃ．Ａ．を実施し、その結果を法人が取りまとめ理事会・評議員会へ報告を行います。

2．　本計画の内容が時代の要請等により変更する必要がある場合は、躊躇なく変更を行うものとします。

3．　本計画ならびに進捗について、ホームページ上での情報公開を実施していきます。

以　　上

学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告（第1回、2019（令和元）年度）

中期経営計画期間は2019(令和元）年度から5年間であり、初年度の進捗を下記のとおり報告するものである。

（評価　〇:評価有　△:評価不十分　×:未実施）

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
＜全体＞			
〇学生・生徒確保 （大学:入学定員×1.15） （高校:募集定員超）	△	①大学:680名、入学定員×1.13 ②高校:290名入学＜募集定員(400名）	①HP等による情報発信力の強化 ②高大接続、附属高校化 ③教職員によるブランド力強化
＜個別・大学＞			
1．教育・研究			
⑴カリキュラム改革	△	〇全体検討に取り組んだ。	〇継続して具体化取り組み
⑵教員養成の強化	〇	〇「教採塾」を通し教員養成を行った。 （令和元年度38名　含過年度生）	〇高大接続、国際交流を念頭に継続取り組み
⑶英語教育改革	〇	〇プレースメントテスト、習熟度教育の実施	〇英語教育の質向上へ継続取り組み
⑷UNIVASへの積極的取り組み	△	①組織作りを実施した。 ②「スポーツソムリエ」の具体化は次年度以降の実施 ③情報発信力強化（専用HP「仙スポ」）	①継続して具体的な取り組み実施 ②「スポーツソムリエ」の具体化
⑸高校・大学の7年教育の取り組み	〇	①7年教育を念頭した新学科（高校、スポーツ創志科）、附属高校化認可 ②7年教育前提の人員配置検討	〇実効性のある取り組みとして学生・生徒確保の実現
2．東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み			
⑴オリンピック・パラリンピック選手輩出	△	〇全学的に取り組み中	〇継続して全学的に取り組み選手輩出の実現
⑵ホストタウン招聘	〇	①ベラルーシ共和国、パラオ共和国の事前合宿実施 ②ベラルーシ共和国より若手指導者招聘、地域間交流実現	〇継続して取り組みの実施
⑶ポスト東京を睨んだ大学教員の指導者派遣	〇	〇ハンガリーオリンピックチームの合宿受入実施（2度）	〇継続して取り組みの実施

3. 地域連携			
⑴宮城県支援事業を通しての地域連携	○	○大河原町、白石市、岩沼市連携実施	○継続して拡大取り組み実施
⑵プロスポーツとのアカデミックパートナー連携	○	○仙台89ERS,ベガルタ仙台、楽天野団と実施	○継続して取り組み実施
⑶近隣市町村との連携	○	○現場実習を兼ね高齢者介護予防、成人の健康実践指導実践	○継続して取り組み実施
⑷民間企業等と連携	○	○JAXA.アイリスオーヤマ、リコージャパン等と職場内健康問題等解決連携	○継続して連携先拡大取り組み実施
4. 国際交流			
⑴学生の提携大学等への派遣	○	○令和元年度実績 59名 ＊派遣中止（新型コロナウィルス）19名	○継続して取り組み実施
⑵新たな提携先拡大	△	○アジア、オセアニア地区を中心に交流拡大模索	○継続して取り組み実施
5. 学生募集・就職支援			
⑴学生募集の強化	△	○強化策（オープンキャンパス開催数増、HPの改訂等）を取り組んできたもののWEB出願等未実施	○WEB出願等の実現を図るとともに強化策の継続取り組み実施
⑵就職支援の強化	○	○就職支援取り組み時期の繰り上げ開始実施	○継続して強化策の取り組み実施
6. 研究費の外部資金獲得	△	○十分な実績を上げることができなかった。	○継続して獲得を目指す。
7. 施設整備			
⑴陸上競技場2レーン増設工事	○	○竣工	
⑵野球場の人工芝化	○	○令和2年5月竣工予定	同左
⑶川平地区再整備事業（仙台地区拠点）	○	○第一期工事供用開始（令和3年4月）に向けて工事進捗中	同左
＜個別・高校＞			
⑴学科再編の実行	○	○新学科（スポーツ創志科）新設（令和2年3月　認可）	○魅力ある学校作りを継続取り組み実践
⑵大学の連携強化	○	①仙台大学附属高校化認可（令和2年3月　認可） ②大学教員の活用検討	○継続し7年教育の取り組み実践

＜個別・法人＞			
⑴コンプライアンス重視の職場づくり	○	①諸規定整備への継続的取り組み ②関連法律等改正への適時対応	○継続した取り組み実践
⑵安定した継続可能な財務基盤の構築	○	○「事業活動収支見込み」に則くしている。	○継続して改善を図っていく。
⑶川平地区再整備事業の実施	○	○第一期工事は、2021年４月供用開始を目途に工事進行中	①第一期工事の継続進行 ②第二期工事の仕様確定
⑷創立140周年事業の実施	○	①記念式典、関連歴史編纂 ②裁縫教育資料データベースの新設 ③創立１４０周年記念募金活動開始（令和元年１２月～）	○継続して募金活動の実施

事業活動収支見込み

（単位：人、百万円）

				令和元年度決算（A）	中期計画（令和元年度 B）	A−B
学生数／生徒数	大学/大学院		学生数(*1)	2,547	2,534	13
			（収容定員）	(2,402)	(2,402)	0
	高校		生徒数(*1)	828	835	△ 7
			（募集定員×３）	(1,200)	(1,200)	0
教育活動収支	教育活動収入			4,511	4,476	35
		学納金		3,499	3,514	△ 15
		経常費等補助金		651	717	△ 66
	教育活動支出			4,616	4,630	△ 14
		人件費		2,894	2,863	31
		教育研究費		1,278	1,318	△ 40
		管理経費		435	447	△ 12
	教育活動収支差額			△ 105	△ 154	49
教育活動外収支	教育活動外収入			4	2	2
		受取利息・配当金		4	2	2
	教育活動外支出			6	5	1
		借入金等利息		6	5	1
	教育活動外収支差額			△ 2	△ 3	1
経常収支差額				△ 107	△ 157	50
特別収支差額				△ 70	△ 18	△ 52
基本金組入前当年度収支差額				△ 177	△ 175	△ 2

*1：在籍者数（5/1）を中退率で補正

学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告（第2回、2020（令和2）年度）

中期経営計画期間は2019(令和元）年度から5年間であり、初年度の進捗を下記のとおり報告するものである。

（評価　〇:評価有　△:評価不十分　×:未実施）

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
＜全体＞			
〇学生・生徒確保 （大学:入学定員×1.15） （高校:入学定員）	△	①大学:647名、入学定員×1.15 ②高校:322名入学＜入学定員(330名）	①HP等による情報発信力の強化 ②高大接続、附属高校化 ③教職員によるブランド力強化
＜個別・大学＞			
1．教育・研究			
⑴カリキュラム改革	〇	〇カリキュラム改革として学科単位の授業科目の整理、およびコード付番による授業科目体系の明確化を図った。	〇新カリキュラムで取り組む。
⑵教員養成の強化	〇	〇「教採塾」を通し教員養成を行った。 （令和2年度62名　含既卒）	〇「教採塾」の深化を図っていく。
⑶英語教育改革	〇	〇プレースメントテスト、習熟度教育を実施し改革の深化を図った。	〇修学意欲促進策の推進を図る。
⑷UNIVASへの積極的取り組み	△	①組織作りを実施した。 ②「スポーツソムリエ」の具体化は次年度以降の実施 ③情報発信力強化（専用HP「仙スポ」）	①継続して具体的な取り組み実施 ②「スポーツソムリエ」の具体化
⑸高校・大学の7年教育の取り組み	〇	①附属高校化認可 ②7年教育前提の人員配置	〇実効性のある取り組みとして学生・生徒確保の実現
2．東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み			
⑴オリンピック・パラリンピック選手輩出	△	〇全学的に取り組み中	〇継続して全学的に取り組み選手輩出の実現
⑵ホストタウン招聘	〇	〇ホストタウン事業への協力としての親善大使活動支援を継続した。	〇コロナ感染状況次第であるがホストタウン事業を継続していく。
⑶ポスト東京を睨んだ大学教員の指導者派遣	×	〇コロナ禍で未取り組み	〇コロナ感染状況を見定めて取り組む。

3. 地域連携			
⑴宮城県支援事業を通しての地域連携	○	○大河原町、白石市、岩沼市連携実施	○継続して拡大取り組み実施
⑵プロスポーツとのアカデミックパートナー連携	○	○仙台89ERS,ベガルタ仙台、楽天野団と実施	○継続して拡大取り組み実施
⑶近隣市町村との連携	○	○現場実習を兼ね高齢者介護予防、成人の健康実践指導実践	○継続して取り組み実施
⑷民間企業等と連携	○	○JAXA.アイリスオーヤマ、リコージャパン等と職場内健康問題等解決連携	○継続して連携拡大取り組み実施
4. 国際交流			
⑴学生の提携大学等への派遣	×	○コロナ禍で進展せず。	○継続して取り組み実施
⑵新たな提携先拡大	△	○アジア、オセアニア地区を中心に交流拡大模索	○継続して取り組み実施
5. 学生募集・就職支援			
⑴学生募集の強化	△	○コロナ禍でWebオープンキャンパス等を実施するもの例年に比べ大幅機会縮小	○WEB出願等の実現を図るとともに強化策の継続取り組み実施
⑵就職支援の強化	○	○就職支援取り組み時期の繰り上げ開始実施	○継続して強化策の取り組み実施
6. 研究費の外部資金獲得	△	○十分な実績を上げることができなかった。	○継続して獲得を目指す。
7. 施設整備			
⑴陸上競技場2レーン増設工事	○	○竣工	
⑵野球場の人工芝化	○	○竣工	
⑶川平地区再整備事業（仙台地区拠点）	○	○第一期建築工事（学校法人朴沢学園川平キャンパス）竣工	○第二期（開発、建築）工事開始
＜個別・高校＞			
⑴学科再編の実行	○	○新学科（スポーツ創志科）新設	○魅力ある学校作りを継続して取り組み実践
⑵大学の連携強化	○	①仙台大学附属高校初年度開始 ②大学教員の配置開始	○継続し7年教育の取り組み実践

＜個別・法人＞			
⑴コンプライアンス重視の職場づくり	○	①諸規定整備への継続的取り組み ②関連法律等改正への適時対応	○継続した取り組み実践
⑵安定した継続可能な財務基盤の構築	○	○「事業活動収支見込み」に則くしている。	○継続して改善を図っていく。
⑶川平地区再整備事業の実施	○	○第一期工事は、2021年４月供用開始した。	○第二期工事に着手した。
⑷創立140周年事業の実施	○	①記念式典、関連歴史編纂 ②裁縫教育資料データベースの新設 ③創立１４０周年記念募金活動開始（令和元年１２月～）	○継続して募金活動の実施

事業活動収支見込み

（単位：人、百万円）

			令和2年度決算（A）	中期計画（令和2年度 B）	A−B
学生数／生徒数	大学/大学院	学生数(*1)	2,629	2,647	△ 18
		（収容定員）	(2,402)	(2,402)	0
	高校	生徒数(*1)	832	860	△ 28
		（入学定員×３ :*2)	(990)	(990)	0
教育活動収支	教育活動収入		4,642	4,576	66
		学納金	3,622	3,666	△ 44
		経常費等補助金	806	658	148
	教育活動支出		4,575	4,520	55
		人件費	2,751	2,850	△ 99
		教育研究費	1,399	1,232	167
		管理経費	415	429	△ 14
	教育活動収支差額		67	56	11
教育活動外収支	教育活動外収入		2	3	△ 1
		受取利息・配当金	2	3	△ 1
	教育活動外支出		10	14	△ 4
		借入金等利息	10	14	△ 4
	教育活動外収支差額		△ 8	△ 11	3
経常収支差額			59	45	14
特別収支差額			△ 7	△ 18	11
基本金組入前当年度収支差額			52	27	25

*1：在籍者数（5/1）を中退率で補正　*2：令和2年4月　入学定員（330名）変更

学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告（第3回、2021（令和3）年度）

中期経営計画期間は2019(令和元）年度から5年間であり、初年度の進捗を下記のとおり報告するものである。

（評価　〇:評価有　△:評価不十分　×:未実施）

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
＜全体＞			
〇学生・生徒確保 （大学:入学定員×1.15） （高校:入学定員）	△	①大学:646名、入学定員×1.08 ②高校:294名入学＜入学定員(330名）	①HP等による情報発信力の強化 ②高大接続、附属高校化 ③教職員によるブランド力強化
＜個別・大学＞			
1．教育・研究			
⑴カリキュラム改革	〇	①Society5.0社会で活躍できる人材育成を目指して、数理・データサイエンエスに関する科目新設検討 ②英語教育改革の深化、高大接続教育の促進継続 ③既存の関連科目の整理	〇継続案件の実施 （スリム化、防災教育の発展、ICT対応等）
⑵教員養成の強化	〇	〇「教採塾」を通し教員養成実施 （令和3年度合格者56名内新卒20名）	〇「教採塾」の深化
⑶英語教育改革	〇	①プレースメントテスト、習熟度教育の継続実施し、テキストの刷新 ②オンライン語学学習支援システムを学内外から利用できるようにシステム変更を行った。	〇英語教育の質向上への取組み 〇オンライン留学の実施模索
⑷UNIVASへの積極的取り組み	〇	①組織作りは実施済みである。 ②情報発信専用HP「仙スポ」を開設した。 ③入学前プログラムの導入を行った。 ④「スポーツソムリエ」の主旨を踏まえた地域貢献活動を進めた。	①地域貢献に重点を置いた取組みの継続 ②入学前プログラム導入演習を継続実施
⑸高校・大学の7年教育の取り組み	〇	①附属高校化認可後2年目 ②7年教育前提の人員配置	〇実効性のある取り組みとして学生・生徒確保の実現

2．東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み			
⑴オリンピック・パラリンピック選手輩出	○	①オリンピック選手輩出（既卒） ②大学の知見を活かし学生・教職員は、大会運営及び栄養管理等のスポーツを「見る」「支える」側面で活躍	○継続して全学的に取り組み選手輩出の実現
⑵ホストタウン招聘	○	○ホストタウン事業への協力としての親善大使活動支援の実施	
⑶ポスト東京を睨んだ大学教員の指導者派遣	×	○コロナ禍で未取り組み	○コロナ感染状況を見定めて取り組む。
3．地域連携			
⑴宮城県支援事業を通しての地域連携	○	○8自治体と連携事業を行い、亘理町及び富谷市と包括連携協定を締結	○継続して拡大取り組み実施
⑵プロスポーツとのアカデミックパートナー連携	○	①仙台89ERS,ベガルタ仙台、楽天野団と実施 ②新たに「マイナビフットボール」と締結実施	○継続して拡大取り組み実施
⑶近隣市町村との連携	○	①現場実習を兼ね高齢者介護予防、成人の健康実践指導実践 ②新たに富谷市、亘理町と包括連携協定締結	○継続して取り組み実施
⑷民間企業等と連携	○	①JAXA.アイリスオーヤマ、リコージャパン等と職場内健康問題等解決連携 ②「仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム」を立ち上げによる官学連携取組み	①継続して連携拡大取り組み実施 ②柴田町、尚絅学院大学と協働した「地域防災人材育成プログラム」の継続取組み ③仙台長町地区拠点（ゼビオアリーナ仙台）の活用
4．国際交流			
⑴学生の提携大学等への派遣	×	○コロナ禍で中止	①コロナ感染状況を見定め再開検討 ②カンタベリー大学とオンラインによる交流の模索（防災面等）
⑵新たな提携先拡大	○	○カンタベリー大学(ニュージーランド)連携協定締結	○継続して取り組み実施

5. 学生募集・就職支援			
⑴学生募集の強化	○	①WEB出願実施、同窓会連携強化 ②高校訪問専担者設置 ③尚絅学院大学、聖和学園高校に続いて、新たに宮城教育大学、星光学院高校と連携協定締結 ④女子寮（100室）設置	①高校訪問専担者による情報の収集および発信強化 ②女子硬式野球部の創部検討 ③学生確保のため附属高、指定高、、連携高との深耕実践
⑵就職支援の強化	○	○就職支援取り組み時期の繰り上げ開始実施	①継続して強化策の取り組み実施 ②同窓会との連携強化
6. 研究費の外部資金獲得	△	○十分な実績を上げることができなかった。	○継続して獲得を目指す。
7. 施設整備			
⑴陸上競技場2レーン増設工事	○	○竣工	
⑵野球場の人工芝化	○	○竣工	
⑶川平地区再整備事業（仙台地区拠点）	○	○第二期建築工事に着工した。（令和4年1月）	○第二期建築工事は、令和4年10月竣工予定
＜個別・高校＞			
⑴学科再編の実行	○	○新学科（スポーツ創志科）新設2年目	○魅力ある学校作りを継続して取り組み実践
⑵大学の連携強化	○	①仙台大学附属高校化2年目 ②大学教員の配置、授業実施	○継続し7年教育の取り組み実践
＜個別・法人＞			
⑴コンプライアンス重視の職場づくり	○	①諸規定整備への継続的取り組み ②関連法律等改正への適時対応	○継続した取り組み実践
⑵安定した継続可能な財務基盤の構築	○	○「事業活動収支見込み」に則くしている。	○継続して改善を図っていく。
⑶川平地区再整備事業の実施	○	○第二期建築工事は、令和4年1月着工した。	○第二期建築工事は、令和4年10月竣工予定
⑷創立140周年事業の実施	○	①記念式典、関連歴史編纂 ②裁縫教育資料データベースの新設 ③創立１４０周年記念募金活動開始（令和元年１２月～）	○継続して募金活動の実施

事業活動収支見込み

（単位：人、百万円）

			令和3年度決算（A）	中期計画（令和3年度　B）	A−B
学生数／生徒数	大学/大学院	学生数(*1)	2,642	2,698	△ 56
		（収容定員）	（2,542）	（2,542）	0
	高校	生徒数(*1)	855	900	△ 45
		（収容定員）	（990）	（990）	0
教育活動収支	教育活動収入		4,842	4,715	127
		学納金	3,709	3,773	△ 64
		経常費等補助金	890	670	220
	教育活動支出		4,771	4,686	85
		人件費	2,806	2,863	△ 57
		教育研究費	1,519	1,395	124
		管理経費	437	420	17
	教育活動収支差額		71	29	42
教育活動外収支	教育活動外収入		1	1	0
		受取利息・配当金	1	1	0
	教育活動外支出		12	14	△ 2
		借入金等利息	12	14	△ 2
	教育活動外収支差額		△ 11	△ 13	2
経常収支差額			60	16	44
特別収支差額			15	0	15
基本金組入前当年度収支差額			75	16	59

*1：在籍者数（5/1）を中退率で補正　*2：令和2年4月　入学定員（330名）変更

学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告（第4回、2022（令和4）年度）

中期経営計画期間は2019(令和元）年度から5年間であり、令和4年度の進捗を下記のとおり報告するものである。

（評価　〇:評価有　△:評価不十分　×:未実施）

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
＜全体＞			
〇学生・生徒確保 （大学:入学定員×1.15） （高校:募集定員超）	△	〇大学:659名、入学定員×1.10 〇高校:240名、入学定員×0.73	①HP等による情報発信力PR機会の創出 ②附属高校、協定高校、同窓会との連携強化推進 ③女子学生獲得に向けたPR強化（女子寮・硬式野球部） ④高校は、全教員行動により定員達成を目指す
＜個別・大学＞			
1．教育・研究			
⑴カリキュラム改革	〇	〇令和5年度から防災士受験資格講座を開設、令和6年度からの情報教諭免許付与への申請手続を行った。 〇数理・データサイエンスに関する科目の新設を追加した。 〇英語教育改革の深化、高大接続教育の促進を継続した。	〇継続案件の検討（スリム化、防災教育の発展など） 〇ICT教育環境整備のため、令和4年度に学内Wi-Fi環境を整備し、5年度以降その活用を図る。
⑵教員養成の強化	〇	〇「教採塾」を継続し、教員養成に注力。令和4年度は過年度生を含む57名が合格した。 （現役14名、過年度生43名）	〇高大接続による教員養成、国際交流等の学外での学修による経験知の拡大等を念頭に、「教採塾」の一層の効果的な運用を図る。
⑶英語教育改革	〇	〇コロナ禍の中でもプレースメントテスト、習熟度別の指導をオンラインを活用し継続して実施した。 〇使用テキストの刷新を図った。 〇学習意欲向上を目指し成績上位者を褒賞した。 〇オンライン語学学習支援システムを学内だけにとどめず、学外からも利用できるようシステムを変更した。	〇英語教育の質向上への取り組みを継続し、学生の英語力向上を図る。 〇連携大学であるニュージーランドのカンタベリー大学などを対象にオンライン留学の実施を模索する。
⑷UNIVASへの積極的取り組み	〇	〇特別指定競技部（18部）に対してスポーツ局から安心安全プロジェクトを実施した。 〇情報発信専用HP「仙スポ」、入学前プログラム教材を活用中。 〇UNIVASから「部活動の地域移行支援」に関する事業の受託し、地域支援活動を行った。	〇特別指定競技部のUNIVAS「SSC認証」取得へ向け、体制整備と強化を図る。 〇「仙スポ」を学生募集につなげ、入学前プログラムの導入演習への接続を継続する。 〇人材バンク、拠点型競技別スクール、指導者の資質・能力確認尺度導入等の実施を検討する。
⑸高校・大学の7年教育の取り組み	〇	〇高校名に「仙台大学附属」と明記。高校での三者面談時に大学説明会を実施するなどにより、令和4年度内部進学者47名を実現した。 〇7年一貫教育のための教員交流、事業の実施に取り組んだ。	〇連携強化を通じて内部進学率を向上させる。 〇取組み強化のため「高大接続教育研究企画事務室」を企画した。

2．東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み			
⑴オリンピック・パラリンピック選手輩出	○	【以下は過年度実施済み】 ○「ホストタウン事業」を活用し、ベラルーシ新体操代表チームの大会前合宿や地域との交流を行い、同国選手のメダリスト輩出に貢献、銅メダル獲得報告会を実施した。 ○東京オリンピックに卒業生が出場した。現役生の輩出はできなかったが、北京の冬季オリンピックでオリンピアンを輩出した。 ○大学の知見を活かし、学生・教職員は大会運営や栄養管理などｽﾎﾟｰﾂを「見る」「ささえる」側面で活躍した。 ○卒業生（本学職員）がブラジルで開催されたデフリンピック男子100mで優勝した。	○今後もオリパラで活躍する選手の輩出に向けて全学的に取り組む。
⑵ホストタウン招聘	○	同上	
⑶ポスト東京を睨んだ大学教員の指導者派遣	○	○ポスト東京オリンピック・パラリンピックへ、次代のオリンピアンの輩出を目指し、海外競技機関と提携した選手・指導者の海外派遣を実施した。 ○教員・選手の海外派遣や海外選手の合宿等の受入れを行い、ポスト東京を睨んだ活動を行った。	○今後も次回大会に向けて継続的な取り組みを実施する。
3．地域連携			
⑴宮城県支援事業を通しての地域連携	○	○柴田町、亘理町、山元町、富谷市、大和町と新たに中学校の部活動支援、小学生の運動指導、地域防災人材育成等を実施した。	○今後も取組みを継続・拡大していく。
⑵プロスポーツとのアカデミックパートナー連携	○	○仙台89ERS,ベガルタ仙台、楽天野団と継続的に活動を実施した。 ○女子サッカーの「マイナビ仙台レディース」を運営する㈱マイナビフットボールと協定を締結し、補食提供等の支援活動を実施した。	○ブランディング事業の成果を踏まえた各種事業について、さらに多くの学生の参画を促しながら継続・拡充していく。
⑶近隣市町村との連携	○	○現場実習を兼ね高齢者の介護予防、成人の健康実践指導実践した。 ○富谷市、亘理町と包括連携協定を締結した。 ○従来よりも規模を縮小し「東北こども博」を開催した。	○継続的に取組みを実施する。
⑷民間企業等と連携	○	○仙台経済同友会と部活動に地域移行に関する協定を締結し、会員企業に就職後もスポーツ指導を希望する学生とのマッチング事業に着手。 ○女子硬式野球部創設に伴い、アイリスオーヤマと活動支援の目的で資金援助を含む連携が実現した。	○連携先と協力した取組みを推進するほか更に民間企業からの支援を増やすよう努める。

4. 国際交流			
⑴学生の提携大学等への派遣	○	○コロナ感染状況の沈静化を踏まえて、令和4年度後期にJASSO奨学金プログラムを活用した提携先大学への学生の海外派遣（10プログラム中6プログラム）を再開した。	○令和5年度はJASSO奨学金プログラムとして9プログラムが採択されており、全て実施する方向で取り組む○提携先の大学から留学生数を拡大するよう努力する。
⑵新たな提携先拡大	○	○ニュージーランドのカンタベリー大学と連携協定締結後、長期留学生を派遣した。	○カンタベリー大学からの学生の受け入れに努める。 ○海外の提携先大学と連携し提携校以外の大学からの留学生受入れに努める。
5. 学生募集・就職支援			
⑴学生募集の強化	○	○WEB出願をさせるとともにLINEを活用した入試情報の発信に努めた。 ○同窓会との連携強化を図った。 ○高校訪問専担者を配置し情報提供と収集に努め、よりきめ細かな学生募集活動を行った。 ○羽黒高校(山形)、県立田村高校（福島）と連携協定を締結した。 ○民間主体で女子寮を設置、2年目で満室（100室）の状況となった。 ○女子硬式野球部を創設し、学生募集強化を図り10名が入学した。	○増加したオープンキャンパス等の回数を維持し、ホームページやCM等あらゆる媒体を活用した情報発信により大学紹介の場を増やす。 ○教員と職員が連携し全員体制で学生募集に注力する。 ○高校訪問専担者による情報収集結果を活かした取組みを進め受験者数の増加を図る。 ○指定校、附属校、連携校との深耕を図り、受験者数増加を目指す。
⑵就職支援の強化	○	○学生への就職支援の取組み時期を繰り上げ、きめ細かな指導に努め高い就職率(98.8%)を維持した。	○受験生増加を目指した就職実績の公表を行う。 ○強化策の取り組みを継続的に実施する。 ○同窓会との連携を強化する。
6. 研究費の外部資金獲得	△	○企業との共同研究で外部資金を獲得することができたが、その他では十分な実績を上げることができなかった。	○企業との共同研究を着実に進めるとともに継続して外部資金獲得を目指す。
7. 施設整備			
⑴陸上競技場2レーン増設工事	○	○竣工	
⑵野球場の人工芝化	○	○竣工	
⑶川平地区再整備事業（仙台地区拠点）	○	○新高校校舎棟・仙台大学サテライトキャンパス・法人本部棟、KMCH棟、アリーナ、連絡橋完成	○高大連携教育、仙台大学サテライトキャンパス、仙台地区公開講座等本格活用
＜個別・高校＞			
⑴学科再編の実行	△	○新学科（スポーツ創志科）新設 3年（完成年度）	○授業の継続改善実践 ○魅力ある学校づくりの継続実践
⑵大学の連携強化	○	○仙台大学附属高校化3年目 ○仙台大学進学者　47名	○継続して7年教育の取組み実践

＜個別・法人＞			
⑴コンプライアンス重視の職場づくり	○	①諸規程整備への継続取組	○継続した取り組みを実践
		②関連法律等改正への適時対応	
⑵安定した継続可能な財務基盤の構築	△	○諸物価高騰、生徒・学生確保未達等により収支差額が見込みと乖離	○継続して改善を図っていく。
⑶川平地区再整備事業の実施	○	○第2期建築工事が令和4年10月に竣工した。	○高校旧校舎解体等残余の工事を進めていく。
⑷創立140周年事業の実施	○	①記念式典開催、関連歴史編纂	○継続して募金活動を実施していく。
		②裁縫教育資料データベースの新設	
		③創立140周年記念募金活動開始	
		（令和元年12月～　）	

事業活動収支見込み

（単位：人、百万円）

				令和4年度決算（A）	中期計画（令和4年度　B）	A−B
学生数／生徒数	大学/大学院		学生数(*1)	2,610	2,704	△ 94
			（収容定員）	(2,542)	(2,542)	0
	高校		生徒数(*1)	835	920	△ 85
			（収容定員）	(990)	(990)	0
教育活動収支	教育活動収入			4,865	4,714	151
		学納金		3,723	3,841	△ 118
		経常費等補助金		943	670	273
	教育活動支出			4,963	4,629	334
		人件費		2,709	2,810	△ 101
		教育研究費		1,797	1,386	411
		管理経費		447	425	22
	教育活動収支差額			△ 98	85	△ 183
教育活動外収支	教育活動外収入			1	1	0
		受取利息・配当金		1	1	0
	教育活動外支出			13	14	△ 1
		借入金等利息		13	14	△ 1
	教育活動外収支差額			△ 12	△ 13	1
経常収支差額				△ 110	72	△ 182
特別収支差額				32	0	32
基本金組入前当年度収支差額				△ 78	72	△ 150

*1：在籍者数（5/1）を中退率で補正　*2：令和2年4月　入学定員（330名）変更